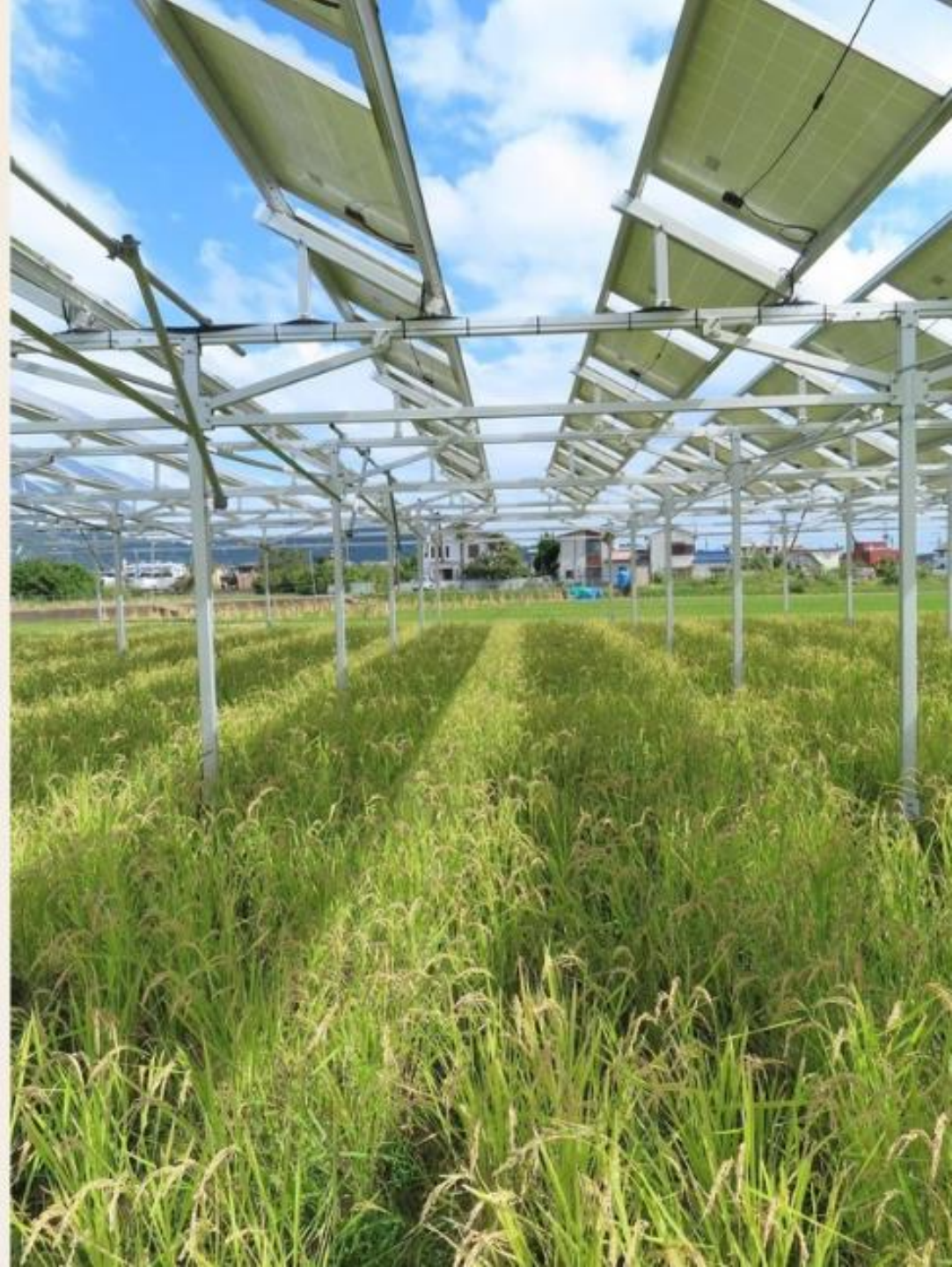


食/エネ自給のまちづくり

合同会社小田原かなごてファーム



全体MAP

酒匂川流域の地域資源を活用し、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



開成(田んぼ) 7号機
7号機(建設予定)



曾比



竣工 2021年2月
面積 約514坪(パネル容量78kW)
売電実績 120万円(単価 23円/kWh)
作付作物 大豆、落花生、さつまいも、さといも

松田



健康福祉センター
木質バイオマスボイラー

酒匂川

3号機

自然エネルギー事業
ソーラーシェアリング

農地で「作物」を作りながら「電気」もつくる。太陽の力を農業とエネルギーでシェアする。「食」と「エネルギー」も地産地消にこだわったプロジェクトです。

桑原



竣工 2019年5月
面積 約360坪(パネル容量58.24kW)
売電実績 140万円(単価18円/kWh)
作付作物 米

2号機

5号機



成田

5号機

竣工 2023年2月(予定)
面積 約1000坪(パネル容量約100kW)
売電実績 180万円(予定)
作付作物 みかん、さといも、米(予定)

自然栽培米使用!
製造工程も脱炭素化!



日本酒 推薦
井上酒造

桑原のソーラーシェアリングの下で育ったお米を地元の酒造と共同開発しました。

沼代



下曾我



竣工 2016年11月
面積 約100坪(パネル容量15.32kW)
売電実績 60万円(単価24円/kWh)
作付作物 さつまいも

6号機

1号機

愛川町



竣工 2021年12月
面積 約200坪(パネル容量41kW)
売電実績 70万円(単価12円/kWh)
作付作物 みかん

4号機

高田



竣工 2024年2月
面積 約250坪
パネル容量 60.6kw
売電収入予想 約94万円
作付作物 みかん

矢作



竣工 2022年2月
面積 約700坪
パネル容量 97.9kw
売電収入予想 約140万円/年
作付作物 みかん

木製架台への挑戦



林業の再生、山の経済循環に貢献するソーラーシェアリングの在り方を模索し、木製架台の実証実験に取り組んでいます

食とエネルギーを自給!
シエスタ
農家カフェSIESTA

食とエネルギーの自給・地産地消を目指す新しいスタイルのカフェ。自然エネルギー100%、自家生産の食材を使用しています。



小田原

矢作

鴨宮



景色と文化を継承!

おひるねみかん
ジュース
耕作放棄地で実ったみかんを丸ごと絞ったストレートジュース

おひるねみかんプロジェクト

童話「みかんの花咲く丘」のモデルである小田原のみかん文化を守り、耕作放棄地が資源になる取り組みを通じて地域の活性化を目指します。

取扱店舗

- 農家カフェ SIESTA
- 葉野リゾート 界 箱根
- 箱根リゾート fore



小田原

相模湾

ソーラーシェアリングとスキームの多様性

<小規模ソーラーシェアリングの複数立ち上げ(7機)と、多様なスキーム事例を創出>

様々な取組みの事例

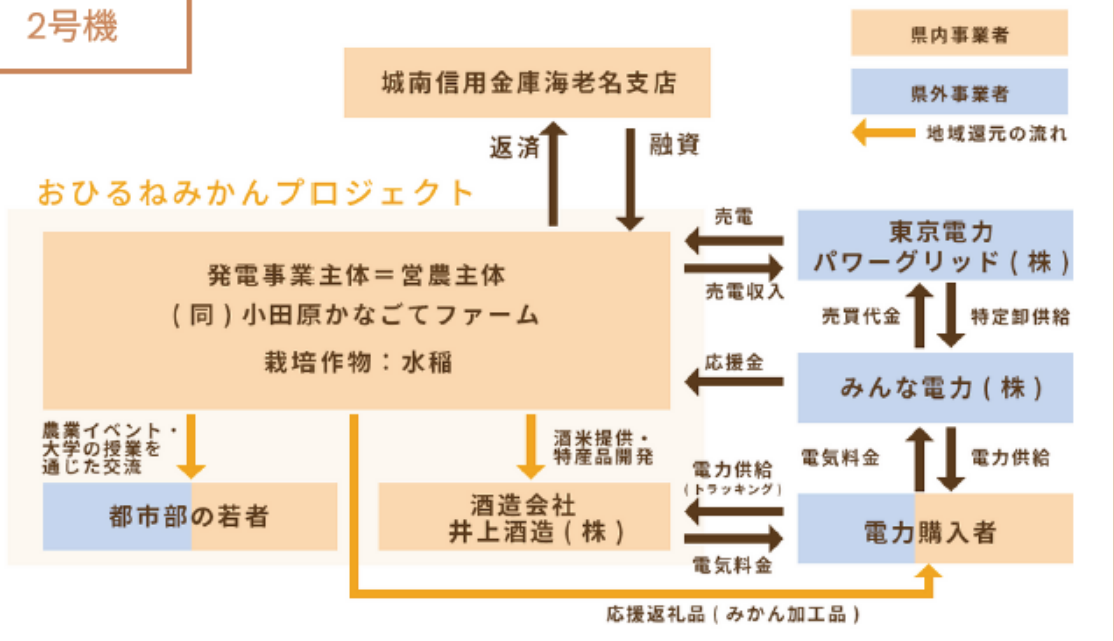
- FIT・Non-FITのオフサイト自家消費型PPA
- EVやカフェを活かした自家消費モデルの実現
- 農福連携（福祉事業所ありんこ虹の会）
- 林業再生に貢献する木質架台の実証実験の実施
- 近隣地域のソーラーシェアリング立ち上げ支援（南足柄市）・・・etc



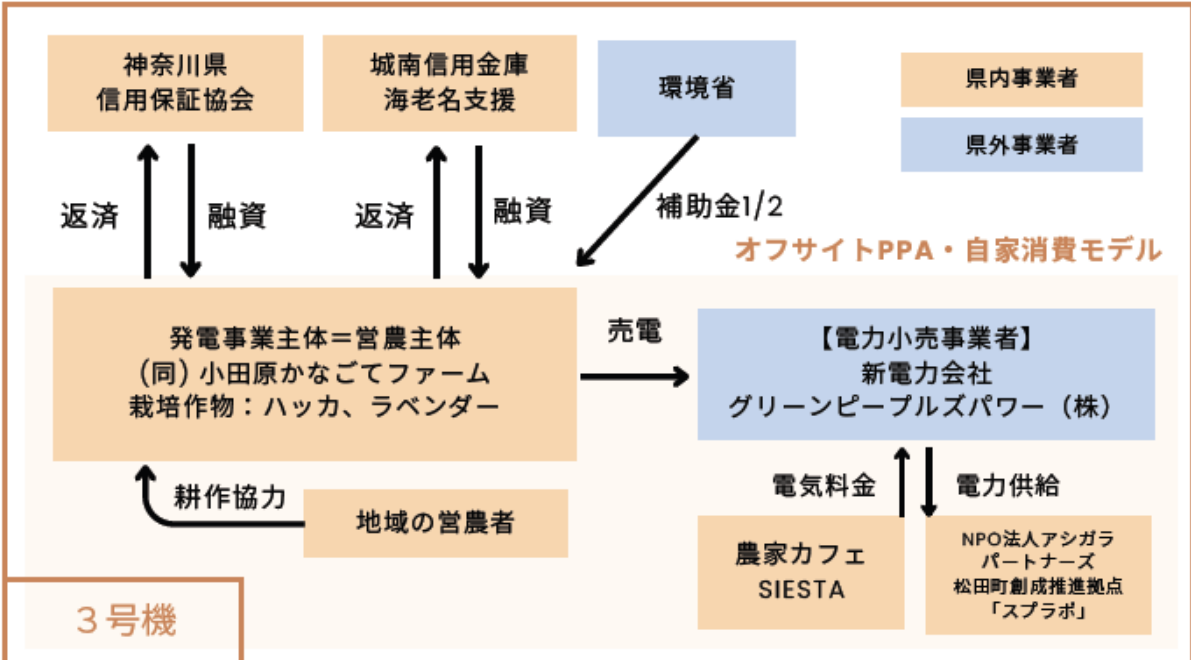
これまでに多様な資金調達事例を創出

様々な金融機関からの融資実績を創出することで、今後の普及に向けた環境の整備（土・道づくり）に貢献している点がポイント。
 （実績例：城南信用金庫、横浜銀行、日本政策金融公庫、かながわ西湘農協、信用保証協会等）

2号機



3号機



農業の六次産業化・地域経済循環

<商品例>

おひるねみかんジュース、みかんサイダー、ジェラート、日本酒推譲、おひるねみかん酒スパークリング、酒粕プリン…etc

地域資源活用



みかん山（自然栽培）



農業の持続 田・畑（自然栽培）

耕作放棄地の再生

みかん

例：地元酒造との協業

寛政元年創業
井上酒造
箱根山

自然栽培米



再エネ



農作物



再エネ



商品化・付加価値化



地域経済の循環

地域経済活性化

販路創出・付加価値化（カフェ）



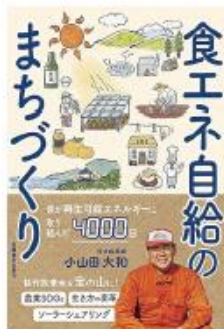
地域雇用の創出

情報発信・教育への貢献・地域連携

多数の講演・視察の受入れ・書籍の出版

年間100回を超える講演会や視察の受入れ、本の出版(右図参照)を通して、ソーラーシェアリングの普及に貢献している。

(実績例：早稲田大学、千葉工業大学、横浜国立大学、広島大学、千葉大学、岩手県宮古市議会、盛岡市議会市政調査会、立憲民主党、日本共産党など)



農学校を通じた人材育成

自然栽培、ソーラーシェアリング、林業、漁業、まちづくり、気候変動、資源循環、思想哲学、ロジックモデルなど多岐にわたる講座を提供し、毎年、地域課題を解決するローカルSDGs人材を育成している。



地域での啓発イベントの開催

持続可能な社会を創るための啓発イベントとして、市民主体の環境イベント「おひさまマルシェ」を2014年から11回開催。

2022年度からは「かなごて流域祭」に継承して気候変動や地産地消、地域の繋がり等をテーマに、継続開催している。高校生から80代までの多世代共創型の体制を構築して運営中。



非常時の地域支援体制の構築

新たに建設するソーラーシェアリング7号機では、非常時に開成町への電力供給を行う協定を締結し、有事の際に地域に開かれた再生可能エネルギーの事例を創出。こうした地域と共生する再エネの在り方が今後より求められると考えています。



流域循環共生圏の実現

流域圏でのシュタットベルケの構築やSXの推進を通して、自律循環・共生する地域づくりを目指します。

ソーラーシェアリングの推進

ソーラーシェアリングの普及促進に向け、地域を越えた案件創出支援や視察/講演の受入、情報発信などにも取り組みます。

次世代人材育成

現在開校している農学校を通して、地域産業/課題解決の担い手育成により一層取り組みます。

地域資源を活用した6次産業化の推進

農産物を活用した、六次産業化事例を創出していくことで、一次産業の事業性の改善、担い手創出に貢献します。

自然栽培の実践と環境再生&農業収入改善

自然栽培による環境再生型の農業を実践し、その上で、現状では不安定性の残る農業収益の改善を図り、安定した事業モデルを確立することで、食エネ自給の担い手創出に繋がります。

エネルギーの地産地消システムの構築

地域経済循環の強化

現在337億円のエネルギー代金が域外に流出しているため、官民連携でエネルギー地産地消の仕組み（AIMS）を構築し、地域経済循環をもたらす再エネインフラを構築します。

流域(広域)連携の強化

森里川海に恵まれた地域性を活かした、持続可能な流域圏の実現に向けて、小田原市だけでなく同じ流域に属する2市8町の連携・共創を推進します。

制度設計

松田町における再エネ条例や、ソーラーシェアリングの導入検討協議会の運営などを実施してきたが、引き続き再エネ普及に必要な制度設計や検討にも取り組んでいきます。

流域循環共生圏

